

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

全日本選抜柔道体重別選手権大会



リオデジャネイロ五輪代表12名が決定



男子 100kg 超級決勝＝原沢久喜（左）対七戸龍（右）

男子 100kg超級 原沢久喜が初優勝

平成28年全日本選抜柔道体重別選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟、共催Ⅱ九州柔道協会・西日本新聞社、主管Ⅱ福岡県柔道協会・福岡地区柔道協会）は4月2日・3日の2日間、福岡国際センター（福岡県福岡市）で、男女各7階級の計14階級ごと、各階級8名の選手が出場し、計112名の選手により、覇が争われた。

本大会年は、8月に迫ったリオデジャネイロ五輪の代表選手の選考を兼ねている。最重量級以外の計12階級では、五輪代表選手の最終選考会（各階級1名）となっており、会場は4年に一度の緊張感に包まれた。

男子100kg超級では、原沢久喜（JRA）が七戸龍（九州電力）と4度目となる直接対決を制し、初優勝。五輪代表当確を印象づけた。

女子70kg級では五輪代表争いを激しく繰り広げる田知本遥（ALSOK）と新井千鶴（三井住友海上）が直接対決。これを田知本が制し、五輪代表をものにした。

新年度の節目となった今大会では、学生から社会人へと生活環境が変化した選手も多く、真新しい柔道着に身を包んだ姿も目立った。そうした中、男子66kg級では、海老沼匡（パーク24）を破った18歳の阿部一二三（日本体育大）が初優勝を果すなど、次世代選手も台頭し、2020年の東京五輪に向けた新たな潮流も感じられる大会となった。

女子
70kg級

田知本遥が制す



女子 70kg 級決勝＝田知本（左）の内股返が有効となる

大会終了後、初めて公開された五輪代表選考の強化委員会において、委員により五輪代表が選考された。選考基準は、今大会での成績、これまでの主要大会における成績とIJF（国際柔道連盟）ランキング上位に入っていること（男子22位以内、女子14位以内）、そして何より誰が一番金メダルを取れる可能性が高いのかに主軸をおいて、各階級1名の代表が決定した。五輪代表選手は以下のとおり。

■男子

- ▽60kg級Ⅱ高藤直寿（パーク24）
- ▽66kg級Ⅱ海老沼匡（パーク24）
- ▽73kg級Ⅱ大野将平（旭化成）
- ▽81kg級Ⅱ永瀬貴規（旭化成）
- ▽90kg級Ⅱベイカー・茉秋（東海大）
- ▽100kg級Ⅱ羽賀龍之介（旭化成）

■女子

- ▽48kg級Ⅱ近藤亜美（三井住友海上）
- ▽52kg級Ⅱ中村美里（三井住友海上）
- ▽57kg級Ⅱ松本 薫（ベネシード）
- ▽63kg級Ⅱ田代未来（コマツ）
- ▽70kg級Ⅱ田知本遥（ALSOK）
- ▽78kg級Ⅱ梅木真美（環太平洋大）

※リオ五輪代表選手の詳細は172～173頁に掲載。女子78kg超級代表は4月17日の全日本女子柔道選手権大会後、山部佳苗（ミキハウス）に決定した。男女最重量級代表者の詳細は月刊「武道」6月号に掲載予定。

▽60kg級 高藤敗れ、志々目が初優勝

五輪有力候補で前年王者の高藤直
 寿（パーク24）は準決勝で大島優磨
 （国士舘大）と対戦。大島の横四方

固が決まり、一本。高藤は準決勝で
 敗退となった。もう一つの準決勝で
 はグランドスラム（GS）パリ優勝
 の志々目徹（了徳寺学園職）が永山
 竜樹（東海大）に指導差1で優勢勝
 ちし、決勝に進んだ。

決勝は、高藤を降した大島と志々
 目が覇を競った。志々目は一本を決
 めて五輪出場の可能性を残したい。
 序盤から、互いに激しくぶつかり合
 う。志々目が技をかけ、大島に指導1
 がつく。両者、技によるポイントほ
 なく試合は終了となった。体重別で
 志々目は指導陣に十分な印象を与え
 ることはできなかった。初優勝では
 あるが志々目に笑顔は見られない。

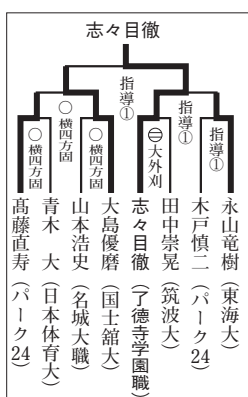
◎優勝Ⅱ志々目徹選手（了徳寺学園職）

「日本人とやるのは苦手でした。し
 っかりと大島選手に勝って優勝でき
 たのは嬉しいですね。しかし、優勢勝
 ですので試合内容はよくありません
 でした。投げて勝つのが日本の柔

道。次回はしっかりと投げて勝ちた
 いです」

▽3位Ⅱ高藤直寿選手（パーク24）

「試合自体は悪くはありませんでし
 たが、気持ちが入りすぎたのだと思
 います。上手く研究されちゃいまし
 た。大島選手の方が、僕に勝ちたい
 気持ちが強かったのだと思います。
 海外の選手より日本人の方が苦手で
 す。僕をターゲットにしているのも
 あるのかもしれません。世界ばかり
 見ていると日本では勝てませんね」



60kg級決勝＝激しく攻める志々目（左）

▽66kg級 阿部一二三、初優勝を飾る



66kg級準決勝Ⅱ阿部（右）は海老沼から、文句無しの背負落を決めて勝利。一昨年のGS東京に続き、対海老沼戦で2連勝



66kg級決勝Ⅱ阿部（手前）は丸山に對しても、攻め続ける。GSに入り、最後は丸山に指導がつき、初優勝を飾った



一昨年世界選手権金メダルの海老沼匡（パーク24）とGS東京優勝の高上智史（旭化成）の争いが予想された66kg級。準決勝で海老沼は若手の阿部一二三（日本体育大）との対戦となった。一昨年のGS東京で対戦しており、その時は阿部が勝利を収めている。

組手争いを繰り広げる両者に指導1が与えられる。中盤、阿部は勢がよく踏み込み、大外刈をしかける。これが技有となり試合が大きく展開する。その1分後、阿部は袖釣込腰で有効をとった。続けざま、阿部は文句無しの背負落を決めて一本。対海老沼戦を2連勝。この準決勝で阿部は多いに存在感を見せつけた。

決勝は、海老沼を破った阿部と高上智史を内股で降した丸山城志郎（ミキハウス）の若手による対決。互いに指導1を受け、ゴールデンスコア（GS）による延長戦となる。GS1分半で丸山が指導を受け、試合は終了。阿部は初優勝を飾った。

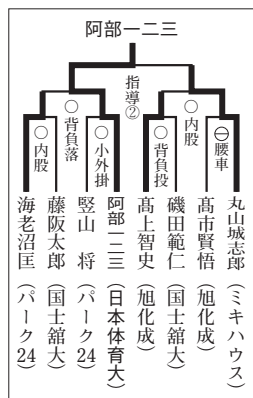
◎優勝Ⅱ阿部一二三選手（日本体育大）

「決勝では絶対に引かない気持ちで頑張りました。思いっきりのいい試合ができ、自分の柔道を出し切った

と思います。準決勝、海老沼選手との試合では、俺はこの階級で一番強いんだ見せてやろうと思ひ、挑みました。試合のない期間に一から身体を追い込んで、レベルアップを図りました。日頃からの稽古がものになりましたね。来年、そして4年後を見据えて今日はいい大会になったと思います。若手で、もつと日本柔道を盛り上げたいですね」

▽3位Ⅱ海老沼匡選手（パーク24）

「何故負けたのか、原因はまだ分りませんが、今日の柔道は情けないし、心の隙があつたのかなと思ひます。組めば何とかなるという自信がありました。組ませてくれませんでした。相手がよく研究していたのだと思う。勉強不足です。何を言っても言い訳になつてしまいます。情けない気持ちでいっぱいです。早く原因を掴みたいです」



▽73kg級

大野が中矢に競り勝つ



73kg級決勝Ⅱ大野（上）が中矢を寝技で攻め立てる

昨年の世界選手権優勝者の大野将平（旭化成）と一昨年世界選手権優勝者の中矢力（ALSOK）、そしてもう一人の世界王者、秋本啓之（了徳寺学園戦）が出場する混戦必至の階級。

初戦、秋本啓之は田村和也（パーク24）と対戦。試合時間30秒過ぎ、田村の小内刈が決まり、秋本は敗退となった。秋本は「全力を出し切った結果です。もともと五輪代表は厳しい状態でしたし、相手の方が一枚上手でした。やりきりました。奥さんには「負けちゃいました、すいません」と言いたいです」とカラッと返答。暗れ暗れとした様子であった。

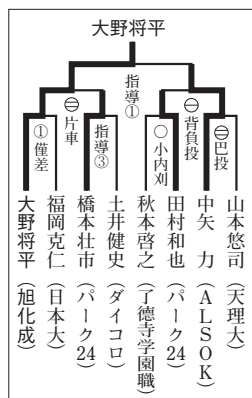
決勝は、準決勝で橋本壮市（パーク24）から有効を奪った大野将平と、田村和也を技有で降した中矢力による五輪候補両者による争いとなった。近年は大野が3連勝している。

「攻撃的で一本をとるような柔道を目指したい」と語っていた大野。追いかける中矢に勝利し、五輪代表を確実にしたいところ。中盤、大野は中矢を寝技に持ち込み、攻め立てる。最後は指導差により、大野が勝利。五輪代表を確実にした。

◎優勝Ⅱ大野将平選手（旭化成）

「疲れましたね。難しい決勝でした。しかし、やるべきことはできました。ただ、まだまだです。次は投げきって勝ちたいですね。一番の激戦の階級でしたが、自分はりオ五輪への思いが強い。それが繋がられて嬉しいんです。世界でも強豪だらけです。どんな選手でも負けることは必ずあります。その可能性を1%でも削っていくことが大切。泥臭く戦うのも世界では大事です。しっかりと準備をして、五輪に臨みたいです」

○準優勝Ⅱ中矢力選手（ALSOK）
「大会では結果がすべてです。力を出し切りましたが、身体が言うことを聞きませんでした。大野選手の研究と対策はしていましたが、満足いく結果は得られませんでした。大野選手の得意の形にもっていかれないようにしましたが、技術不足でした」



▽81kg級 永瀬が堂々の3連覇達成

81kg級では、アスタナ世界選手権優勝者で五輪最有力の永瀬貴規（旭化成）が登場した。初戦で小原拳哉（東海大）に優勢勝ち。準決勝では佐藤正大（国士館大）に対してなかなかポイントをとれないものの、残り30秒で払巻込を有効とし、そのまま袈裟固を決めて一本。3連覇と五輪へ向けて、順調に駒を進めた。

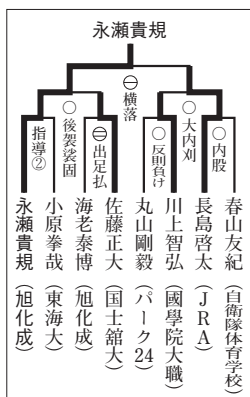
対して、決勝まで駒を進めたのは、この大会で2年連続準優勝の長島啓太（JRA）。初戦は、春山友紀（自衛隊体育学校）に内股で勝利し、準決勝では、残り20秒で川上智弘（國學院大学職）に大内刈を決めた。こちらも快調に決勝進出。永瀬対長島は実に3年連続の同じ決勝カード。過去は永瀬が2連勝となっている。「圧倒的に勝つてリオに進みたい」と語っていた永瀬。この勝負で存在感をみせたいところである。

前半、ケンカ四つからゆっくりと時間をかけて攻める永瀬、嫌がる長島に指導がつく。永瀬が長島の奥襟を掴み横落を放つ。これに対応しようとして長島が自分の上体を返すもの

の、技有となる。そのまま試合は終了。永瀬は貫禄の3連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ永瀬貴規選手（旭化成）

「長島選手とは体重別で3年連続試合をしており、互いに手の内を知り尽くしています。内容はあまりよくありませんでしたが、ポイントをとれたのが大きかったですね。この大会で3連覇できたのは、上を見すぎず、一つ一つ取り組んできた結果だと思います。僕の場合、日本人でも海外の選手でも柔道はそんなに変わらない。やることをやるだけです。五輪は楽しみの方が大きいですが、近づくに連れて不安も大きくなると思います。しかし、このままの状態です。五輪に臨もうと思います。リオではどんな選手が出てきても対応できるようにしたいです」



81kg級決勝＝永瀬（左）が横落で技有とし、3連覇を決める

▽90kg級 西山、6年越しの初優勝

前年度優勝者であり90kg級五輪代表に最も近いベイカー茉秋（東海大）は、調子が上がらない。一回戦は指導差による優勢勝ち、グランプリ（GP）青島優勝の長澤憲大（パーク24）との準決勝でも指導2と指導3の僅差で優勢勝ちとなった。

対抗馬であるGSパリ優勝の西山大希（新日鐵住金）は準決勝で小林悠輔（旭化成）に対し、残りわずかで支釣込足による技有をとり、執念で6年ぶりの決勝へ駒を進めた。

決勝は、攻める西山と逃れようとするベイカーの構図。ベイカーが指導を受け、西山の流れはそのまま続く。両者は技によるポイントはなく、指導差により、西山は6年越しとなる悲願の初優勝を果たした。



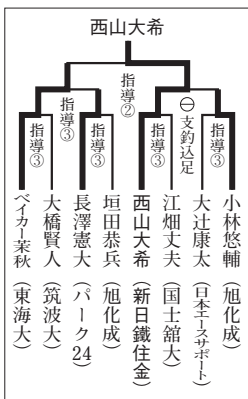
90kg級決勝＝西山（右）が初優勝

◎優勝Ⅱ西山大希選手（新日鐵住金）

「ロンドン以降は、毎年大きなケガに悩まされてきました。しかし、そのケガも乗り越えて戦うことができました。最後は意地で勝ちにいきました。ただそれだけです。優勝できてうれしいです。それでも五輪選考はベイカー選手だと思います」

○準優勝Ⅱベイカー茉秋選手（東海大）

「五輪選考に伴うプレッシャーはあまりありませんでしたが、決勝で負けてしまいました。指導をもらったのが今日の敗因だと思っています。コンディションはあまりよくなく、初戦から指導差による優勢勝ちでしたし、いい柔道がとれませんでした。五輪選考での、この1年間は長かったですね。最後は優勝したかったです。やりきった感じです」



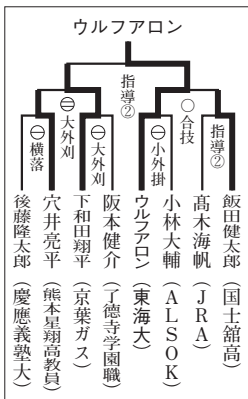
▽100kg級 羽賀が欠場し、ウルフ優勝

アスタナ世界選手権王者の羽賀龍之介（旭化成）が左膝内側副韧带（じん帯）により欠場となった100kg級。

100kg級五輪代表として概ね当確している羽賀に代って、昨年の講道館杯優勝、GSパリ3位のウルフアロン（東海大）が順当に決勝まで勝ち進んだ。決勝での相手は、下和田翔平（京葉ガス）。昨年の講道館杯決勝と同じ対戦となった。前半互いに指導1を受ける。その後もウルフは果敢に攻め、下和田に指導2がつき、ウルフが初優勝を収めた。

◎優勝Ⅱウルフアロン選手（東海大）

「今日は3試合とも慎重にやれたと思います。投げられないようなスタイルを心掛けたい。東京五輪に向けて、この優勝を、今後の多くの試合につなげていけたらと思います」



100kg級決勝＝ウルフ（左）が勝利

〈大会欠場の羽賀龍之介選手が五輪に内定する〉

大会の翌日、大会を欠場するものの五輪代表となった羽賀選手が、ケガの状況と現在の心境、五輪への思いを語った。

▽羽賀龍之介選手（旭化成）

「稽古中に負傷、現在は順調に回復しており、5月中旬には稽古できるようリハビリを進めています。ケガはすべて自己責任です。今回、選抜柔道体重別選手権を欠場することになり、自分自身非常に悔しいです。ただりオ代表というチャンスをもたらえたので、五輪に向けて、気を引き締め、皆に認めてもらえたらと思う」

▽100kg超級

原沢が七戸に4連勝



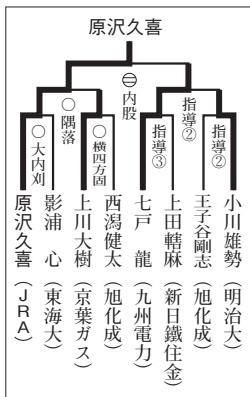
100kg超級決勝＝原沢（上）は内股を有効とし、七戸（下）に勝利

平成26年全日本選手権優勝の王子谷剛志（旭化成）は、東京五輪での活躍が期待される若手ホープの小川雄勢（明治大）に指導2の優勢負け。「何故負けたかよくわからない、ビデオをみて研究します」と困惑気味であった。小川は準決勝で、七戸龍（九州電力）に指導2で敗れたものの、まずまずの結果を残し、「自分にチャンスはあったがものにできなかった。五輪選考で戦えたのがい経験になると思う。次の全日本でも頑張りたい」と語った。

GS東京・GSパリ優勝で国際大会7連勝中と破竹の勢いで勝ち進んでいる原沢久喜（JRA）は、準決勝で上川大樹（京葉ガス）を隅落で破り、決勝では七戸とのリオ五輪代表を掛けた4度目の直接対決となった。これまでは原沢が3連勝している。試合は指導差で原沢がリードする展開になる。しかし、原沢は守りには入らず、攻め続ける。残り時間1分半、前傾になった七戸に原沢は内股を放ち、有効を奪った。その後も攻め続ける柔道で、初優勝を飾った。七戸との直接対決を4連勝とし、五輪代表をほぼ手中に収めた。

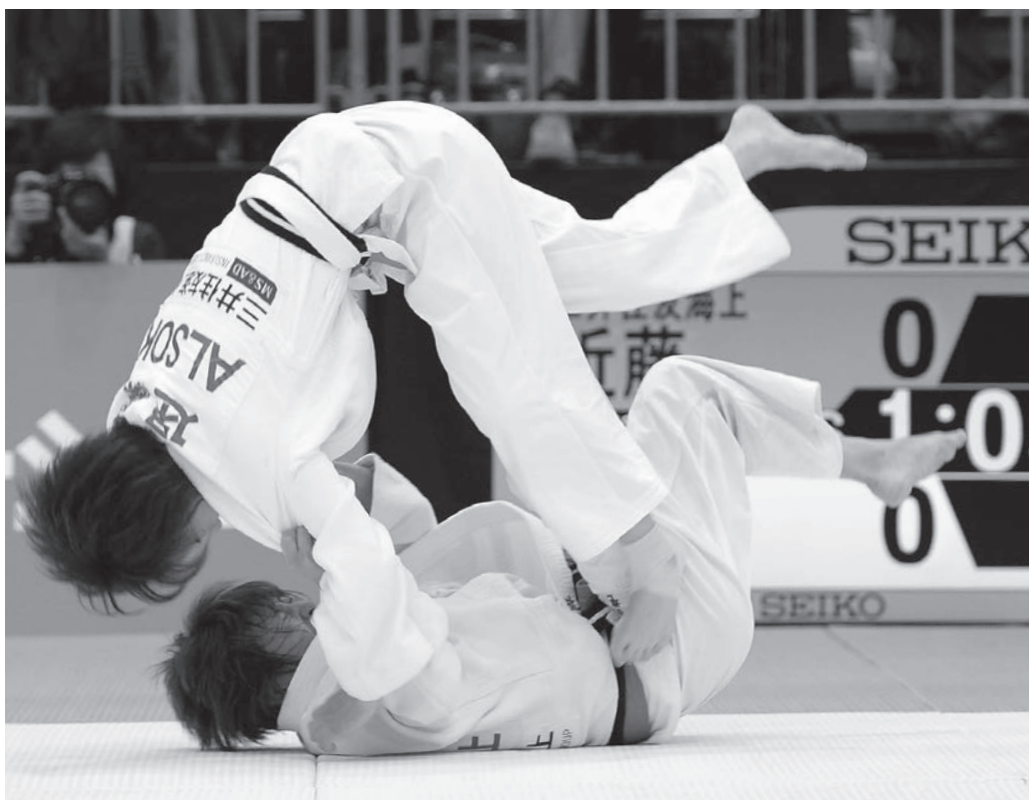
◎優勝Ⅱ原沢久喜選手（JRA）

「この大会で結果を出せたのは大きなことです。決勝は完勝ではありませんが、いい勝負ができました。最後の内股は狙ったわけではないけれども、前へ前へと出てとれたポイントだと思います。今日は初戦から調子がよかったです。全試合まずまずの出来です。指導差ではなく、ポイントで勝てたことは五輪へのいいアピールになりましたね。何より、我慢しきれたことが収穫です。七戸選手が疲れているのは感じていました。最後にああいう技を出せるのが自分の強みです。試合前には準備の徹底は怠りません。最近はいメージトレーニングも行っています。また、ケガの予防として、休養もしっかり取るようにしています。すぐに全日本もあるので喜んではいられません。慢心せずにいきたいです」



▽48kg級

近藤が五輪初出場へ



48kg級決勝＝GS 1分過ぎ、近藤（下）が巴投を放つ

五輪候補である浅見八瑠奈（コマツ）と、近藤亜美（三井住友海上）の直接対決が注目された48kg級。

初戦、浅見は森崎由理江（A-I LINE）と対戦した。序盤から森崎に攻め立てられ、指導2を受ける浅見。浅見は攻めに回るものの、森崎の大内返が有効となり、浅見は初戦敗退。ロンドン五輪を逃した4年前の体重別と全く同じ展開となった。浅見は深々とお辞儀をし、試合場を後にした。

決勝は、順調に勝ち進んだ近藤と遠藤宏美（ALSOK）が対戦。互いに譲らず、試合はGSに入った。GS 1分過ぎ、近藤の仕掛けた巴投が有効となり試合終了。近藤は体重別で2度目の優勝となり、五輪代表を射止めた。

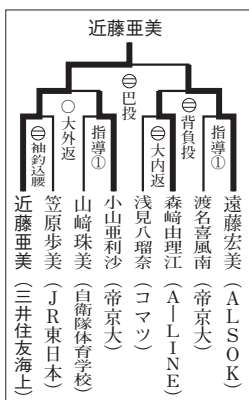
◎優勝Ⅱ近藤亜美選手（三井住友海上）「昨年は負けてばかりで、私の五輪代表は崖っぷちだと思っており、この体重別では優勝するしかない」と決心していました。リオに向けてしっかりとした試合ができた満足しています。浅見選手と直接対決したかったけれど、他の選手も強かったです。浅見選手は、私を高めてくれたいいライバルだったと今は思います。

す。私の出身の愛知県・大石道場では7大会連続で五輪出場が決まりました。大石道場出身の谷本歩実選手のように、次は自分が道場の子どもたちに金メダルをみせたいです」

▽5位Ⅱ浅見八瑠奈選手（コマツ）「自分の中では全力を出し切ったつもりです。敗因は相手と自分の技が噛み合わず、焦ってしまっただけです。もっと高みに登りたかったです。4年前と同じ結果になってしまった。試合に負けてから畳に深く礼をしたのは、試合を見てくれた全ての人に申し訳ないという気持ちからです。中身の濃い4年間でした」



深々と礼をする浅見



▽52kg級 中村が3回目の五輪へ

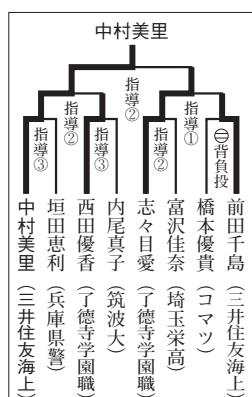
3度目の五輪出場を狙い、中村美里（三井住友海上）が大会に臨む。

準決勝では同じくベテランでGP青島優勝の西田優香（了徳寺学園）との戦い。長年膝のケガに悩まされた中村だが、安定した試合展開をみせ、指導差により優勢勝ちとなった。決勝では、前田千島（三井住友海上）を降した期待の若手志々目愛（了徳寺学園）と対決。昨年のGS東京と同じカードとなった。

激しく組手争いを繰り広げる両者。前半は互角の戦いを繰り広げる。積極的に前にでる志々目。中村は自分の組手にもついでいこうと、大内を狙い、攻め続ける。中盤になると徐々に中村の攻勢が目立ち始め、志々目は指導1を受ける。志々目を寝技に持ち込む中村。試合の主導権を握った中村に対し、攻めあぐねる志々目。後半にはとうとう志々目に指導2がつく。そのまま試合は終了し、指導差2により、中村の優勢勝ちとなった。中村は6度目の体重別を連覇し、3回目の五輪への切符を手に入れた。

◎優勝Ⅱ中村美里選手（三井住友海上）

「連覇できました。決勝では、緊張せず、悪くなく臨めました。今回で3度目の五輪選考会です。ケガで悩まされた膝もリハビリによって安定し、落ち着いて試合を運べましたね。この大会で優勝して代表の座を掴みたいという気持ちでした。五輪も3度目です。北京では銅メダル、ロンドンではメダルに届きませんでした。3回も五輪のチャンスが巡ってきたということは、金メダルをとれ、ということだと思っています。ロンドンでは少し堅くなってしまうましたが、リオでは色々な方向から臨みたいですね。女子柔道の代表選手では自分が上という意識はないですが、経験を活かし、チームメイトにアドバイスできたらと思います」



52kg級決勝＝攻める中村（上）

▽57kg級

芳田が初優勝、松本敗退



57kg級決勝Ⅱ石川の足技を透かした芳田（上）が燕返をしかけ、技有をとり、勝利。芳田は初優勝に輝いた。



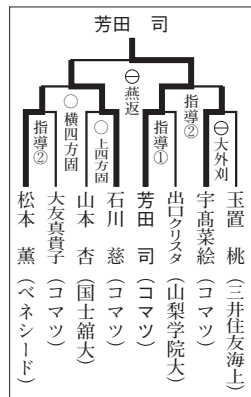
57kg級準決勝Ⅱ松本（下）は観客の声を審判の「待て」と勘違い。この判断ミスにより、一本負けとなった

ロンドン五輪、アスタナ世界選手権大会金メダリストの松本薫（ベネシード）は準決勝で石川慈（コマツ）と対決。試合中盤、突然、石川に覆い被さっていた松本の動きが止まった。松本には審判の「待て」が聞こえたとする。その瞬間、石川が攻めにかかり、寝技に持ち込む。審判に松本が訴えるものの、そのまま横四方固が決まる。松本は試合後も審判に不満をあらわにしたが、判定が覆ることはなかった。

決勝は松本を破った石川と芳田（コマツ）の2人が同門対決で相見えた。ケンカ四つからの攻防が続く。互いに譲らず、試合の攻防は一進一退を繰り返す。後半、石川の足技を透かした芳田が燕返で技有を奪った。これが決まり手となり、芳田は同門対決を制し、初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ芳田選手（コマツ）

「決勝ではワンパターンにならないように色々な方向から攻めようと思っていました。自分のできることを精一杯やるだけです。同世代にもたくさんライバルがいます。従って、目の前の試合を一つずつこなしていき、五輪に繋がればと思います」



〈松本薫選手、判断ミスを謝罪〉

翌日の4日、五輪代表に内定した松本薫選手は、石川選手との試合について自身の判断ミスであったことを認め、コメントを残した。

▽3位Ⅱ松本薫選手（ベネシード）

「観客席からの声を審判の「待て」と勘違いして力を抜いてしまいました。試合後は頭に血が上がり、審判に抗議してしまいました。申し訳なく思っております。このミスは私が試合にしっかりと集中しなかった反省点であります。これがリオでなく、その前の大会で気づくことができてよかったと今は考えています。五輪へ向け心を締めたいと思います」

▽南條充寿全日本女子監督

「最後まで気を抜かないことが選手の責務であり、それは今後、徹底しなければなりません」

▽63kg級

能智、同門対決で勝利



63kg級決勝＝能知（上）の出足払が有効となる

五輪代表候補であり前年度優勝者の田代未来（コマツ）は、準決勝で能智亜衣美（筑波大）と対戦した。互いに指導2となり、GSに突入。残り時間1分半をきり、能智が狙っていた支釣込足を技有とし、田代に勝利。決勝に進出した。田代は準決勝で敗退となり、リオ五輪へ向けて課題を残した。

準決勝第2戦は、津金恵（筑波大）と西川真帆（了徳寺学園職）の対戦となり、津金が指導3で優勢勝となった。

能智と津金とともに筑波大の3年生、決勝戦は同門同級生による対決となった。ケンカ四つの組手となった両者、互いの出方を知り尽くしているためか、技によるポイントはなかなか入らない。しかし、残り時間1分半、隙をついた能智の出足払が有効となる。主導権を握った能智はそのまま逃げ切って初優勝となり、地元福岡で錦を飾った。

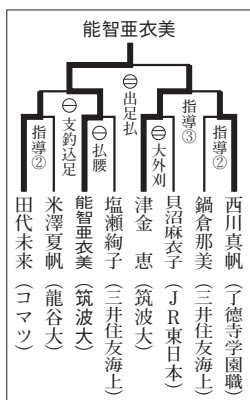
◎優勝Ⅱ能智亜衣美選手（筑波大）

「地元で、中学生のころからのあこがれの大会でした。田代選手との準決勝、自信はありました。GSでは、あせらず、気持ちで負けないように

心掛け、狙っていた支釣込足を決めることができました。決勝では同じ筑波でライバルの津金恵選手と対戦できたことも嬉しかったです。いつも練習している相手です。高校時代から負けていたので、決勝では苦手意識をなくそうと努めました。今後、自分の得意な形を磨き、東京五輪を目指したいです」

▽3位Ⅱ田代未来選手（コマツ）

「悔しい結果となってしまった。GSまではまさか負けとは思っていませんでした。まだ練習と自力が足りないのだと思う。指導差の戦いだとあいう結果になってしまう。最初にポイントをとっておくことは大切ですね。今までは重要な場面でもそんなに緊張しませんでした。五輪選考会はこのようにプレッシャーがかかるのだと実感しました」



▽70kg級

田知本、直接対決を制す



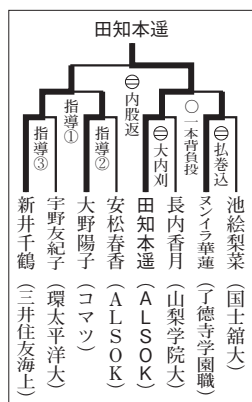
70kg級決勝＝決定打となった田知本（奥）の内股返

決勝では、昨年度優勝者でGS
パリ優勝の田知本^{たちもとほるか}（ALSO K）
と、GS東京優勝の新井千鶴^{あらいちづる}（三井
住友海上）が対戦。実力が拮抗する
両者。IJFランキングでも田知本
が8位、新井が7位とほぼ互角であ
り、70kg級の五輪代表は定まらず、
事実上、今大会決勝での直接対決で
決まることになった。直接対決では
過去、田知本が2連勝となっている。

相四つから両者技を繰り出し、互
角の戦いを展開する。動いたのは残
り1分20秒、田知本の足技を狙い、
新井が内股を放つ。すかさず田知本
はそれを返し、有効がつく。この有
効により田知本が2連覇し、優勝と
なった。五輪をかけた直接対決は田
知本に軍配があがった。

◎優勝Ⅱ田知本選手（ALSO K）
「嬉しいですね。覚悟を決めてこの大
会に臨みました。大会が近づくとつ
れて、今までなかったことがないほど
緊張しました。しかし、練習を重ね
るうち、いけそうだという感触はあ
りました。決勝戦で新井選手と対戦
して、最後は決着をつけたと思っ
てました。今日勝たなければ、思い
描く人生にならないと思います、最後は

投げにしようと思心しました。ちゃ
んと白黒つけられてよかったです。
今日は、自分の力を出し切ることが
できたと思います」
◎準優勝Ⅱ新井千鶴選手（三井住友海上）
「プレッシャーは特にありませんで
した。優勝したかったが、やられた
という感じです。後ろ向きになった
時、気持ちで押し込められてしま
いました。しかし、自分としては全
体的には、以前とは違い、気持ちでも
貫いたと思います。最大限の力は出
し切りました。日本一になりたいと
思っています。日本一になりました。今後
は今の課題を克服していきたいで
す。自分の中では、目指す柔道に近
づいていると思っていますが、ま
だ未熟ですね。五輪には出たいで
す。出場して日本の柔道を見たい
です。選考の結果はありのまま受け
入れ、前向きに考えていきたいです」



▽78kg級 佐藤が出足足払で勝利

準決勝では、アスタナ世界選手権覇者で五輪代表有力候補の梅本真美（環太平洋大）が緒方亜香里（了徳寺学園職）と対戦した。緒方が梅本を指導差1で降す展開となった。

決勝は、昨年王者であり準決勝で濱田尚里（自衛隊体育学校）を降した佐藤瑠香（コマツ）と、梅本を破った緒方の対戦となった。開始早々佐藤が勢いよく出足払を放った。これが鮮やかに決まり一本。佐藤は2年ぶり3回目の優勝を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ佐藤瑠香選手（コマツ）
「優勝できてほっとしています。五輪に出場するため、とにかくこの大会で優勝しようと決意していまし

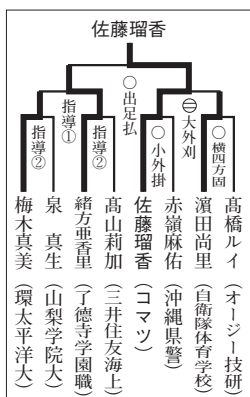
た。いままで、きつい稽古も乗り越えて来れたのは、たくさんの人々のおかげです。その思いが強い分、緊張もしました。しかし、今までお世話してくれた家族・先生の思いに応えたかったです。自分の思いを形で表現したかったです。決勝では、あまり相手を意識せず、最後の一本は気持ちで掛けました。私は私、すべてを出し切って優勝できました」

▽3位Ⅱ梅本真美選手（環太平洋大）

「大分対策をされたようです。自分の柔道をしようと思いましたが、組手を取られてしまいました。指導をとられてからは、崩しきれず、投げられませんでした。自分の力不足を痛感しましたね。代表になれるかは分らないですが、今、自分の出来ることに取り組みたいと思います」



78kg級決勝＝佐藤（右）の出足払が決まる



▽78kg超級 山部が指導差により辛勝



78kg超決勝＝山部（奥）が攻める

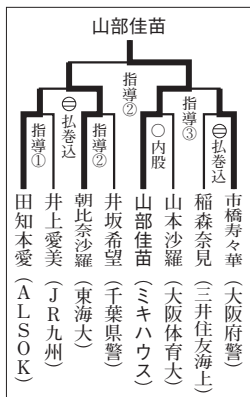
代表候補の田知本愛（ALSOK）が登場。準決勝は朝比奈沙羅（東海大）と対戦した。互いに指導2を受け、GSに突入。経過1分40秒、朝比奈の払巻込が有効となり、田知本は敗退。課題が残る試合となった。

田知本のライバル山部佳苗（ミキハウス）は準決勝で市橋寿々華（大阪府警）を降した。決勝戦、調子が上がらない山部と先ほど大金星をあげた朝比奈が対戦し、山部が指導差2で優勢勝ち。山部が2年ぶり2度目の優勝し、五輪の可能性を繋げた。

◎優勝Ⅱ山部佳苗選手（ミキハウス）
「負けたら次はないと思い、臨みました。初戦で自然と一本をとれたので、落ち着くことができました。田

知本選手とは直接戦いたかったですね。ですが、朝比奈選手が投げて勝つてきているので、決勝は油断できませんでした。負ける怖さがつきまとうので、気持ちを整理しようとしたのですが、できないままでしたね。前に出ていくことだけがすべてではないですが、一本で勝つような柔道を心掛けたいです。次は皇后盃、一戦一戦大事にしていきたいです」

▽3位Ⅱ田知本愛選手（ALSOK）
「勝ちたい気持ちが強かったですが、負けてしまいました。4年前を思い出し、五輪へ行きたい気持ちが強く、それが悪い方向へいつてしまった。皇后盃がまだあるので頑張りたいと思います。戦い方を今後、変えなければならぬ。やれることをやっていきたいです」



【大会結果】

◆男子	優勝		2位		3位
100kg超級	原沢久喜 (JRA)	(初優勝)	七戸 龍 (九州電力)	上川大樹 (京葉ガス)	小川雄勢 (明治大)
100kg級	ウルフアロン (東海大)	(初優勝)	下和田翔平 (京葉ガス)	穴井亮平 (熊本星翔高教)	飯田健太郎 (国士館高)
90kg級	西山大希 (新日鐵住金)	(初優勝)	ペイカー茉秋 (東海大)	長澤憲大 (パーク24)	小林悠輔 (旭化成)
81kg級	永瀬貴規 (旭化成)	(3年連続3回目)	長島啓太 (JRA)	佐藤正大 (国士館大)	川上智弘 (國學院大職)
73kg級	大野将平 (旭化成)	(2年ぶり2回目)	中矢 力 (ALSOK)	橋本壮市 (パーク24)	田村和也 (パーク24)
66kg級	阿部一二三 (日本体育大)	(初優勝)	丸山城志郎 (ミキハウス)	海老沼匡 (パーク24)	高上智史 (旭化成)
60kg級	志々目徹 (了徳寺学園職)	(初優勝)	大島優磨 (国士館大)	高藤直寿 (パーク24)	永山竜樹 (東海大)
◆女子					
78kg超級	山部佳苗 (ミキハウス)	(2年ぶり2回目)	朝比奈沙羅 (東海大)	田知本愛 (ALSOK)	市橋寿々華 (大阪府警)
78kg級	佐藤瑠香 (コマツ)	(2年ぶり3回目)	緒方亜香里 (了徳寺学園職)	梅本真美 (環太平洋大)	濱田尚里 (自衛隊体育学校)
70kg級	田知本遥 (ALSOK)	(2年連続3回目)	新井千鶴 (三井住友海上)	大野陽子 (コマツ)	ヌンイラ華蓮 (了徳寺学園職)
63kg級	能智亜衣美 (筑波大)	(初優勝)	津金 恵 (筑波大)	田代未来 (コマツ)	西川真帆 (了徳寺学園職)
57kg級	芳田 司 (コマツ)	(初優勝)	石川 慈 (コマツ)	松本 薫 (ベネシード)	宇高菜絵 (コマツ)
52kg級	中村美里 (三井住友海上)	(2年連続6回目)	志々目愛 (了徳寺学園職)	西田優香 (了徳寺学園職)	前田千鳥 (三井住友海上)
48kg級	近藤亜美 (三井住友海上)	(2年ぶり2回目)	遠藤宏美 (ALSOK)	小山亜利沙 (帝京大)	森崎由理江 (A-LINE)

リオ五輪代表選手発表記者会見

〈強化委員会が報道陣に公開される〉

大会終了後、選手選考の強化委員会が会見に先立ち行われた。同委員会は、代表選考の透明性を目的とし、昨年の世界選手権後に実施。五輪選考としては、今回初めて一部の報道陣に対し公開された。山下強化委員長は「今大会で満足する結果を得られなかった選手の選考では委員から厳しい意見も出された。代表選手選考の公開は現場選手からの強い希望であった。また公開に際し、委員会も入念な準備を行った。ある程度の評価はしたいと思う」と語った。



委員会終了後、会場に隣接する福岡サンパレスホテル福岡にて、リオ五輪代表選手発表記者会見が行われた。山下泰裕強化委員長、井上康生全日本男子監督、南條充寿全日本女子監督により、最重量級を除く、男女6階級、計12階級の発表となった。

※男子100kg超級、女子78kg超級のリオ五輪代表者の詳細は、月刊「武道」6月号に掲載予定。



山下泰裕
強化委員長

「今回、男女各6階級を決定した。内定者の中には、今大会にて内容の不甲斐ない者もいたが、男女とも順当な人選になったと思う。気を引き締めて五輪に臨みたい」



井上康生
全日本男子監督

「誰が一番金メダルを取れる可能性が高いのか」に主軸をおき、身を切る思いで選考し、最終的には監督案が採用された。日本代表として全身全霊で戦いたい」



南條充寿
全日本女子監督

「選手たちには最後は笑顔で表彰台にあがってもらいたい。これから4年間の集大成の準備を進めたい」

代表選手12名がリオへの決意を示す

大会後の4月4日、東京・講道館において、山下強化委員長と、井上、南條両監督とともに、前日五輪代表に内定した12階級（最重量級を除く）の選手が出席し、記者会見が行われた。選ばれた代表選手は、リオ五輪にかける意気込を語った。

男子

▽60 kg級



高藤直寿
(パーク24)
22歳 1993年生
栃木県出身

「五輪では柔道として初日に出場します。チームにいい流れをもつてこられるよう先陣を切りたいと思います。自分らしい柔道を見せたいです」

▽66 kg級



海老沼匡
(パーク24)
26歳 1990年生
栃木県出身

「ロンドンでは悔しい思いをしました。その借りをしっかりと返してリオ五輪に臨みたいと思います。生き生きとした柔道をしたいです」

▽73 kg級



大野将平
(旭化成)
24歳 1992年生
山口県出身

「レベルの高い階級ですが、金メダルを獲得し、真のチャンピオンであることを証明してみせます」

▽81 kg級



永瀬貴規
(旭化成)
22歳 1993年生
長崎県出身

「今やれることを必死にやってきました。五輪では、何が何でも金メダルをとりたいと思います。相手がいやがる柔道をしたいですね」

▽90 kg級



ベイカー 茉秋
(東海大)
21歳 1994年生
東京都出身

「五輪では全ての思いを力に変えて、何が何でも金メダルを取りにくという強い気持ちを持って頑張りたいと思います」

▽100 kg級



羽賀龍之介
(旭化成)
25歳 1991年生
宮崎県出身

「五輪までいい準備をして、誇りをもって戦いたいと思います。しぶとい柔道を目指します」

女子

▽48 kg級



近藤亜美
(三井住友海上)
20歳 1995年生
愛知県出身

「伝統ある48 kg級で五輪に出られることを誇りに思います。自分らしい畳の上で跳ねるような柔道を心掛けようと思います」

▽52 kg級



中村美里
(三井住友海上)
27歳 1989年生
東京都出身

「五輪は三度目となるので、“三度目の正直”として金メダルをとってきたいと思います」

▽57 kg級



松本薫
(ベネシード)
28歳 1987年生
石川県出身

「ロンドン後の4年間は長かったです。2連覇目指して頑張ります」

▽63 kg級



田代未来
(コマツ)
22歳 1994年生
東京都出身

「五輪では、金メダルをとることだけを考えて頑張ります」

▽70 kg級



田知本遥
(ALSO K)
25歳 1990年生
富山県出身

「ロンドンでの経験を活かし、チャンピオンになれるよう頑張ります」

▽78 kg級



梅本真美
(環太平洋大)
21歳 1994年生
大分県出身

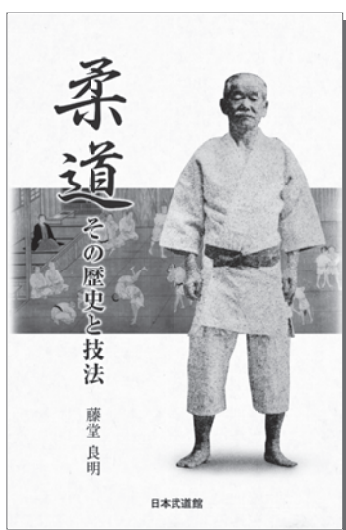
「金メダルをとれるよう、自分らしく力を発揮していこうと思います」

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法
 体術の起こりと技法
 組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法
 講道館柔道の創設と技法
 嘉納治五郎の乱取開発
 講道館柔道の行事と整備
 警視庁武術大会の勝利と技法
 学校体操への柔道導入の試み
 学校における柔道普及の実態
 高専柔道の起こりと技法
 嘉納治五郎の他武道への接近
 精力善用国民体育の創案と技法
 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
 第二次大戦中の柔道界と技法
 第二次大戦後の柔道禁止と復活
 格技柔道から武道柔道へ
 女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法
 竹内流腰廻
 関口新心流柔術
 起倒流柔術
 起倒流柔道
 直信流柔道
 真之神道流柔術
 天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
 柔道技法の変遷と特徴
 柔道の国際的普及と発展
 段位制度の国際比較
 柔道の国際化と課題</p> | |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

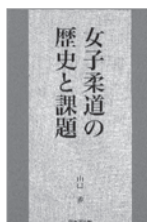


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



男子団体決勝＝日体荏原大将・藤原（上）が背負投で国士舘大将・飯田から有効を奪う



試合を終えた藤原を迎える日体荏原の選手たち

第38回全国高等学校柔道選手権大会

日体荏原 涙の初優勝

第38回全国高等学校柔道選手権大会は3月19日（個人戦）・20日（団体戦）に日本武道館で開催された。

男子団体戦は、日体荏原が国士舘を破って初制覇。女子は敬愛（福岡）が大成（愛知）との接戦を制して優勝。男子個人戦81kg級は日体荏原の藤原崇太郎が連覇。女子無差別では敬愛の児玉ひかるが栄冠に輝いた。

団体戦（20日）

■男子

52チームによるトーナメント方式、1チーム5名の勝ち抜き試合で行われ、試合時間は3分（決勝4分）。

決勝は日体荏原（東京）と昨年高校三冠の国士舘（東京）との対戦。本大会の東京予選決勝でも対戦した両校だが、その時は国士舘が2人残りで日体荏原に勝利しており、国士舘が優勝の大本命と目された。



日体荏原・塚本（上）が内股透で一本勝



日体荏原・ハンガル（上）が支釣込足で国士館・河田を破る

まず先鋒戦は引分。次鋒戦、国士館・本間は日体荏原・長井の背負投を堪えて後腰で豪快に返して、一人抜き。日体荏原の中堅はケガで交代した大吉に代わって入った塚本。塚本は体格差のある本間を鮮やかな内股透で破ってスコアをタイに戻す。

中堅戦、国士館・磯村は指導3つでリードすると、終了直前に小外掛で一本勝。国士館が再びリードするも、日体荏原副将・ハンガルは磯村を肩固、続く副将・河田を支釣込足で破る大活躍で、大将・飯田を引きずり出す。飯田はスタミナ切れをおこしたハンガルを攻め、技有を奪うも、一本は取れず、最後はハンガルが反則負け。

抜きつ抜かれつの勝負の行方は日体荏原・藤原と国士館・飯田のエース対決に持ち越された。試合は互角の組手争いが続くが、開始1分半、藤原が大内刈から連絡した背負投で有効を奪う。巻き返しを狙う飯田に対し藤原は防御を固めつつ、背負投、小外刈などで攻め、付け入る隙を与えない。焦る飯田は残り40秒で大内刈を放つ。これが、技有の判定になるも、協議の結果取り消しで逆

転ならず。藤原は残り時間を有効に使ってそのまま勝利。日体荏原が下馬評を覆して初優勝を果たした。

◆決勝

日体荏原(東京) 1人残り国士館(東京)

百々雄弥 引分 稲垣由生
長井晃志 後腰 本間 壘
塚本 綾 内股透 本間 壘
塚本 綾 小外掛 磯村亮太
ハンガル 〇肩固 磯村亮太
ハンガル 〇支釣込足 河田闘志
ハンガル 反則勝 飯田健太郎
藤原崇太郎 〇優勢勝 飯田健太郎

◎優勝Ⅱ日体荏原・小久保純史監督

「選手には、藤原に負担をかけないように、全員柔道で自分の責任を果たしていよと話していました。みんな良い仕事をしてくれたと思います。準決勝で大吉がケガをして、決勝に出られなかったんですが、泣いている姿を見て選手たちが奮い立ちました。決勝は選手たちが少ないチャンスをものにしてくれましたし、各々の試合巧者ぶりも出たと思います。これまでは三冠なんてとんでもないという感じでしたが、今回優勝した以上、三冠目指して頑張ります」

◎優勝Ⅱ日体荏原・藤原崇太郎選手
「決勝の飯田選手とは4、5回対戦していますが、中学で1回勝ったただけで、あとは全部負けていました。ですが、ここまでみんなが繋いでくれたので勝つしかないという気持ちでした。飯田選手が副将のハンガルと試合した状態で当たったことも大きかったです。チームのメンバーはどこよりもチームワークで勝つ気持ちが強かったですし、個人との二冠も、自分だけの力じゃなく、みんなの力で成し遂げた感じですよ」



男子団体優勝Ⅱ日体荏原(東京)

■女子

48チームによるトーナメント方式、1チーム3名の点取り試合で行われ試合時間は3分（決勝4分）。

決勝に残ったのは敬愛（福岡）と大成（愛知）。両校は昨年の金鷲旗と高校総体の決勝でも対戦。金鷲旗は敬愛、高校総体は大成が制しており、勝負の行方に注目が集まった。

先鋒戦は敬愛・寺田と大成・武田の対戦。接戦になるが、武田は指導2の僅差で寺田を降す。続く中堅戦。落とすと敗戦決定の敬愛だが、中堅・小柳は引分狙いなのか、積極的に攻めず、今ひとつ気迫が感じられない。一方、大成の山室はここで決めようと、必死に攻めるも技が決まらず、逆に片襟の指導を取られる皮肉な展開。試合は両者決め手を欠いて引分に終わり、迎えた大將戦。

敬愛・児玉は身長差を活かし、有利な組手を展開。内股、払腰で攻勢をかけるも、大成・糸田はなんとか凌いで試合終盤へ。残り20秒、児玉が十分な組手から内股を仕掛けると、糸田は堪えきれず畳に倒れてついに一本。最後に内容差で逆転した敬愛が3年ぶりの優勝を果たした。

◆決勝

敬愛（福岡） ①—1 大成（愛知）

寺田宇多菜 僅差 武田亮子
小柳穂乃果 引分 山室未咲
児玉ひかる 内股 糸田晴乃

◎優勝Ⅱ敬愛・吉元幸洋監督

「今年は団体戦で優勝するチャンスだと思っていました。ケガもあったけどコンディション作りが難しい面も

あったんですけど、ギリギリで優勝出来たので本当に嬉しいです。決勝は先鋒を取られて厳しい展開でしたが、大將が一本を取ってくれましたし、本当にみんなよく頑張ったと思います。試合中、選手には勝負に出ろ、気持ち負けするなということをやっていると伝えていました。今後は三冠を狙いたいですが、あまり気負わないでやっていきたいです」



女子団体大將戦＝敬愛・児玉（奥）が内股を仕掛けにいく



優勝が決まり、喜びをかみしめる敬愛の選手たち

女子団体優勝Ⅱ敬愛（福岡）



個人戦（19日）

階級別トーナメント、試合時間3分で行われ、時間内に勝負がつかない場合は、時間無制限のゴールデンスコア（GS）で勝敗を決した。また、今年から男子90kg級に代わり66kg級が、女子70kg級に代わり48kg級が新設された。

■男子

▽60kg級

決勝は市川龍之介（千葉・習志野）対古賀玄暉（愛知・大成）。市川は試合終盤に肩車で有効を奪い、昨年の覇者・古賀を降して優勝。

▽66kg級

西村優太（大阪・常翔学園）と東亮輝（広島・崇徳）の決勝戦はGSへもつれこみ、西村が低い姿勢からの背負投で有効を奪って、勝負あり。

▽73kg級

決勝に残ったのは渡邊神威（愛知・大成）と朝比奈龍希（滋賀・近江）。渡邊は朝比奈の袖釣込腰を返して有効を奪うと、そのまま崩壊装固で朝比奈を抑え込んで一本勝ち。

▽81kg級

前年優勝の藤原崇太郎（東京・日

体荏原）と笠原大雅（奈良・天理）が、昨年に続いて決勝で激突。試合では互いに技が出ず、二つずつ指導が与えられるが、ここで試合巧者ぶりを見せたのは藤原。十分な組手を作り、笠原の極端な防御姿勢の指導を誘い、僅差で接戦をものにした。藤原は見事この階級での連覇を達成。

▽無差別

決勝は配島剛（埼玉・埼玉栄）と山下魁輝（千葉・木更津総合）の対戦となった。試合は時間内では勝敗が決まらず、GSへ。延長戦開始直後、配島が連続で大外刈を仕掛け、ここから払巻込に変化すると、山下は堪らずに巻き込まれて一本。配島が見事一本勝で優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ埼玉栄・配島剛選手

「大会直前に足首を疲労骨折して、大会の1週間前から練習を再開しました。足首はまだ直っていないんです。最後は無我夢中で、かけなかったら負けていたかなという状況だったので投げられてよかったです。重量級にしては組手と足が器用なので、そこをうまく活かして、頭を使って柔道をしています。今後は高校総体での個人優勝を狙います」



男子73kg級決勝＝渡邊（右）が朝比奈を必死に抑え込む



男子60kg級決勝＝市川（左）が肩車で有効を奪う



男子無差別決勝Ⅱ一本になった配島（右）の払巻込



男子66kg級決勝＝西村（左）の背負投が有効の判定



女子 57kg級決勝＝舟久保（奥）が得意の寝技で若藤を抑える



女子 48kg級決勝＝梅北（右）が大内刈で一本勝



女子無差別決勝＝児玉（左）の内股が和田を捉える



女子 52kg級決勝＝富沢（右）が小内刈で有効

■女子

▽48 kg 級

決勝は梅北真衣（兵庫・夙川学院）と黒崎美紅（島根・平田）の対戦。序盤から互いに激しい組手争いが続く中、梅北が綺麗に大内刈を決めて一本勝。

▽52 kg 級

決勝は富沢佳奈（埼玉・埼玉栄）と武田亮子（愛知・大成）の顔合わせ。開始2分過ぎ、富沢の小内刈が有効の判定。このポイントを守り切った富沢が初優勝を飾った。

▽57 kg 級

決勝は舟久保遥香（山梨・富士学苑）と若藤唯（神奈川・桐蔭学園）の対戦となった。試合は両者攻め手に欠き膠着する。試合終盤、舟久保が内股を仕掛けると、若藤は腹這いで逃げる。しかし舟久保はうつ伏せの若藤をひっくり返して得意の寝技に持ち込む。舟久保は20秒間がっちり若藤を抑え込み、昨年2位の雪辱を果たした。

◎優勝Ⅱ富士学苑・舟久保遥香選手

「オリンピックが武道館で行われるので、ここで優勝できて本当に良かったです。決勝の寝技は自分だけし

か使っていない技だと思えます。この技は立ち技から寝技への移行がすごく大事で、相手の道着の内側を持てたら決められるので、入りを大事にしています。寝技は、寝技の得意な先生に中学から教えてもらって自然にできるようになりました」

▽63 kg 級

決勝は三浦裕香理（岡山・創志学園）と田中志歩（山口・聖光）の対戦となった。試合はGSまでもつれ込む。三浦が積極的に攻める一方、技が出ない田中に2つ目の指導が入り、三浦が優勝を果たした。

▽無差別

決勝に残ったのは児玉ひかる（福岡・敬愛）と和田梨乃子（愛知・大成）。両者とも決勝までの全試合を2分以内に一本勝って勝ち上がる充実の内容。試合は体格で勝る児玉が有利な組手を作るが、和田も負けじと果敢に組んで積極的に攻めていく。しかし、勝ったのは児玉。試合中盤、児玉は払腰で崩れた相手を利用して技有を奪うと、終了20秒前には大外刈、小外刈、内股と細かく技を繋いで和田から一本を奪い、見事オール一本勝で初優勝に輝いた。



男子個人戦優勝者=左から、市川、西村、渡邊、藤原、配島



女子個人戦優勝者=左から、梅北、富沢、舟久保、三浦、児玉

【大会結果】

■男子団体①日体荏原（東京）②国士舘（東京）③木更津総合（千葉）、埼玉栄（埼玉）

■女子団体①敬愛（福岡）②大成（愛知）③藤枝順心（静岡）、東大阪大学敬愛（大阪）

■男子個人

▽60 kg級①市川龍之介（千葉・習志野）②古賀玄暉（愛知・大成）③村上一騎（大分・柳ヶ浦）、木村祐太（北海道・札幌山の手）

▽66 kg級①西村優太（大阪・常翔学園）②東亮輝（広島・崇徳）③星田和希（熊本・鎮西）、原田健士（東京・日体荏原）

▽73 kg級①渡邊神威（愛知・大成）②朝比奈龍希（滋賀・近江）③齋藤拓洋（大分・柳ヶ浦）、後藤大介（神奈川・慶應義塾）

▽81 kg級①藤原崇太郎（東京・日体荏原）②笠原大雅（奈良・天理）③吉原誉貴（佐賀・鳥栖工業）、焼谷風太（埼玉・埼玉栄）

▽無差別①配島剛（埼玉・埼玉栄）②山下魁輝（千葉・木更津総合）③新垣慶一郎（沖縄・沖縄尚学）、長岡李空（広島・崇徳）

■女子個人

▽48 kg級①梅北真衣（兵庫・夙川学院）②黒崎美紅（島根・平田）③桑原栞奈（愛知・同朋）、伴由梨奈（埼玉・埼玉栄）

▽52 kg級①富沢佳奈（埼玉・埼玉栄）②武田亮子（愛知・大成）③瀧川萌（滋賀・比叡山）、島谷真央（広島・広島皆実）

▽57 kg級①舟久保遥香（山梨・富士学苑）②若藤唯（神奈川・桐蔭学園）③山本奈々瀬（兵庫・武庫川女子大附属）、西口楓雪（滋賀・比叡山）

▽63 kg級①三浦裕香理（岡山・創志学園）②田中志歩（山口・聖光）③佐々木ちえ（島根・平田）、山下園加（京都・京都文教）

▽無差別①児玉ひかる（福岡・敬愛）②和田梨乃子（愛知・大成）③田中伶奈（岐阜・鶯谷）、西村満利江（長崎・長崎明誠）

好評発売中

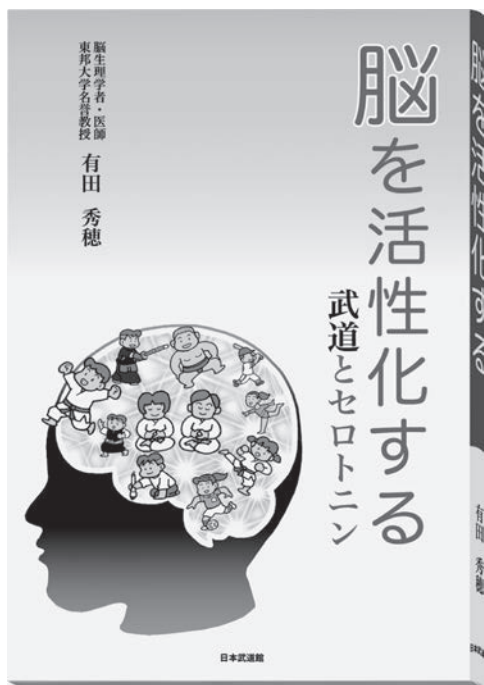
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1,600円+税



有田 秀穂

(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「氣」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

役に
立つ

少年柔道指導法

DVD付き

役に
立つ
少年柔道指導法

向井 幹博



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第1部 解説編 | 第九章 少年柔道の未来のために |
| 第一章 少年柔道は柔道指導の原点 | 第二章 実技編 |
| 第二章 基本動作の指導 | 第一章 礼法の指導 |
| 第三章 技の指導 | 第二章 受け身の指導 |
| 第四章 教育の中の柔道 | 第三章 基本動作の指導 |
| 第五章 指導の工夫 | 第四章 トレーニング法の指導 |
| 第六章 少年規定の変遷と問題点 | 第五章 柔道の練習法 |
| 第七章 柔道の安全指導 | 第六章 投技の指導 |
| 第八章 東日本大震災への講道館の対応 | 第七章 固技の指導 |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第53回関東小学生剣道錬成大会



大会作品道場「書道の部」で健筆を振るう



台湾少年団の参加者も熱心に掛かり稽古に取り組む

少年少女剣士が文武両道の鍛錬に励む



第53回関東小学生剣道錬成大会（主催＝東京都少年剣道研究会）は、4月10日、日本武道館で開催された。大会には192団体、小学4年生から中学1年生の少年少女剣士、約2200人が参加した。また、海外からは台湾少年団33名も初参加し、掛かり稽古や試合で汗を流し、親睦を深めた。

始めに選手が入場行進した後、開会式が行われた。新6年生代表の前野祐佑選手（千葉・葛南道場）が「誓いのことば」を読み上げ、新中学1年生代表の齋藤夢実選手（東京・船堀剣心会）が「感謝のことば」を力強く述べた。続いて、神影流剣道形の演武が行われた。

開会式が終わると、各団体の指導者が元立ちとなり、出場選手たちは切り返し、掛かり稽古を行った。タレントの渡辺正行氏も元立ちとなり、子供たちと一緒に汗を流した。その後、指導者は互角稽古を行った。試合は、男女別・学年別に分かれて16試合場で個人戦トーナメント方式で行われた。各試合場では日頃の稽古の成果を存分に発揮し、熱戦が繰り広げられた。

また、試合の間には、「文武両道」の文の部として、「大会作品道場」の作品を募集した。日本武道館の一室では大会参加者が稽古着のまま、書道の作品を書き上げた。「書道の部」「絵の部」「作文の部」の3部門において、それぞれ優秀作品が選出された。



神影流剣道形の演武



来賓祝辞を述べる
タレント・渡辺正行氏



「感謝のことば」
齋藤夢実選手（船堀剣心会）



「誓いのことば」
前野紘佑選手（葛南道場）



各試合会場で熱戦が繰り広げられた

【大会結果】

◆剣道優勝者（中学1年生）

- ▽山戸崇信（松伏町剣道連盟）
- ▽大越充悟（新磯剣心会）
- ▽岸本彩花音（川崎御幸剣友会）
- ▽浅田真吾（城剣友会）
- ▽須鎌有香（鴨警剣友会）
- ▽野村優（養浩館道場）
- ▽田中健悟（八潮市剣道連盟）
- ▽大城賢馬（矢向剣友会）
- ▽武笠慈生（浦安本部道場）
- ▽生方望（池田剣友会）

■作品道場入選者

◆書道の部

- ▽斗ヶ澤紫雲（中1・浦安本部道場）
- ▽竹内舞唯（中1・中島道場）
- ▽江田直将（中1・印南剣道スポーツ少年団）
- ▽内田瑞基（中1・印南剣道スポーツ少年団）
- ▽中村惺（中1・葦立剣友会）
- ▽濱道凛桜（中1・轟剣友会）
- ▽遠藤美悠（中1・東京小島剣友会）
- ▽村井泰翔（中1・白岡市剣道連盟）
- ▽處羽菜（中1・岬町少年剣友会）
- ▽佐藤涼奈（中1・鴨川警察署剣道スポーツ少年団）
- ▽西田ひより（小6・松原剣道スポーツ少年団）
- ▽川名美帆（小6・日本武道館研

修センター武道学園）

- ▽岩澤穂香（小6・印南剣道スポーツ少年団）
- ▽鈴木隆生（小5・日本武道館研修センター武道学園）
- ▽鈴木陽岳（小5・大楠剣道クラブ）
- ▽塩原祐磨（小4・日本武道館研修センター武道学園）

◆絵の部

- ▽濱道凛桜（中1・轟剣友会）
- ▽田中さくら（中1・瀬谷区剣道連盟）
- ▽宮地花歩（中1・瀬谷区剣道連盟）
- ▽阿部将（小6・川崎御幸剣友会）
- ▽板橋拓哉（小5・瀬谷区剣道連盟）
- ▽松山真輔（小5・中島道場）
- ▽高橋徳之介（小5・松原剣道スポーツ少年団）

◆作文の部

- ▽栗山晃一（中1・印南剣道スポーツ少年団）
- ▽金指有紀（中1・鷺沼剣友会）
- ▽有村卯波（中1・鷺沼剣友会）
- ▽内田瑞基（中1・印南剣道スポーツ少年団）
- ▽松浦心（中1・白岡市剣道連盟）
- ▽木島彩貴（中1・一宮尚武会）
- ▽西田ひより（小6・松原剣道スポーツ少年団）

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。

付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

- 第一章 一眼／子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声
- 第二章 一足／少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る
- 第三章 三胆／指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意
- 第四章 四力／技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方
- 第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業あとかき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学大学院准教授 酒井利信 著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	第二章 神話的イメージの形成
第一節 探求の旅をはじめににあたって	第一節 神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節 刀剣の歴史	第二節 天より降る剣 節薙剣
第三章 刀剣思想の源流	第三節 天地を繋ぐ剣 草薙剣
第一節 古代中国の宝剣伝説 太阿の剣	第三章 信仰のなかの刀剣思想
第二節 干将莫耶の宝剣伝説	第一節 祀る剣 祀られる剣
第三節 高祖の斬蛇剣	第二節 辟邪の呪剣
第四節 道教と剣	第三節 うけいの呪術と剣
第五節 古代朝鮮の刀剣思想	第四章 中世における刀剣思想
第一節 神話的イメージの形成	第一節 三種の神器の不思議
第二節 天より降る剣 節薙剣	第二節 『平家物語』にみる三種の神器
第三節 天地を繋ぐ剣 草薙剣	第三節 『太平記』に語る草薙剣像
第三章 信仰のなかの刀剣思想	第五章 近世剣術における刀剣思想
第一節 祀る剣 祀られる剣	第一節 剣術伝書に語られる日本神話
第二節 辟邪の呪剣	第二節 新当流にみる霊剣の技術
第三節 うけいの呪術と剣	第三節 示現流にみる心の利剣
第四章 中世における刀剣思想	第四節 近世剣術における刀剣思想の展開
第一節 三種の神器の不思議	第六章 近現代における刀剣思想
第二節 『平家物語』にみる三種の神器	第一節 近代以降の刀剣思想
第三節 『太平記』に語る草薙剣像	第二節 古代と現代を繋ぐ刀剣
第五章 近世剣術における刀剣思想	終章 く稽古照今
第一節 剣術伝書に語られる日本神話	
第二節 新当流にみる霊剣の技術	
第三節 示現流にみる心の利剣	
第四節 近世剣術における刀剣思想の展開	
第六章 近現代における刀剣思想	
第一節 近代以降の刀剣思想	
第二節 古代と現代を繋ぐ刀剣	
終章 く稽古照今	

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

月刊 心 技 体 人を育てる総合誌

武道